

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	佐賀市立日新小学校
-----	-----------

1 前年度 評価結果の概要	・保護者、児童、教師のアンケート結果は、ほとんどの項目が、上期より下期の結果がよくなっていた。教師間で、具体的な取組について共通理解・共通実践できたためである。これからも、学校の取組を発信していき、保護者・地域に理解・協力をしてもらい、保護者・地域・学校が連携し、児童の成長に向けたよりよい関わりを行っていく。 ・達成度Bの項目については、早急に改善策を具体化し、全職員共通理解のもと実践していくことが必要である。 ・3部会での取組については、計画から実施で終わりではなく、反省を生かした次年度への計画の見直しまで行い、次年度の計画を「見える化」していく。一つ一つの取組に対し、全職員一丸となって前向きに取り組むことのできる日新をを目指す。 ・業務改善・教師の働き方改革の推進が実践できるように、全職員が仕事の質を高めることを意識しながら、仲間と関わり合い、言葉掛けをしていく。時間外勤務時間は減少しているので、来年度は、週1日定時退勤日を設け、さらなる働きやすい職場作りを行う。
------------------	---

2 学校教育目標	ふるさとを愛し、心まことに行動する日新の子の育成 ～「あ・そ・べ・や」でみんな輝く 日新の子～ あ…あいさつ そ…そうじ べ…べんきょう や…やさしい心 みんな輝く…一人一人のよさが輝く
----------	--

3 本年度の重点目標	1 安心して学べる環境を確保し、子ども・保護者・地域から信頼される学校をつくる。 2 教職員の意識改革と効率的な自己研鑽を推進し、指導力と人間性の向上を図る。 3 「知・徳・体」の調和の取れた生き抜く力を備えた子どもを育成する。
------------	--

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価				主な担当者	
(1)共通評価項目											
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価			
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践 ・主体的な学習者の育成	○「進んで学習に取り組んでいるか」の質問に肯定的な回答をする児童の割合が80%以上。	・各学年の実態に合わせ、個に応じた指導・支援を行う。 ・自己選択・自己決定の場面設定、主体的な学習を促す。	A	・成果指標は89.5%となった。全職員「主体的な学習者」の育成を共通の目標として取り組んでいるが、数値として減少した。校内研究を中心に、学校全体や教職員個人、児童の実態や課題を明確にし、次年度以降の手立てを考察していく。	A	・成果指標は85.6%となった。当初の目標は達成しているが、数値として減少した。校内研究を中心に、学校全体や教職員個人、児童の実態や課題を明確にし、次年度以降の手立てを考察していく。	A	・どの先生と話しても問題点を共有している。良だ。 ・上期より達成度が低くなっており、大変難しいと思うが、児童自ら学びたくなるような工夫が必要だと思う。 ・今の取り組みを続けてください。	・学方向上対策コーディネーター ・研究主任 ・反射炉部	
	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「友達に優しく親切にしている」と答えた児童80%以上	・児童の実態に合わせて学年、全校さわやかタイムを計画・実施する。	A	・「友達に優しく親切にしている」と回答した児童91.9%だった。また、全校さわやかタイム、学年さわやかタイムを計画通りに実施することが出来た。	A	・「友達に優しく親切にしている」との回答は91.0%となった。目標の80%以上は満たしているが、上期と比べ0.9%減少した。日々の言葉遣いから目を配り、言葉掛け、指導していく必要があると考える。全校さわやかタイム及び学年さわやかタイムは実施内容の変更は少なかったが、計画通り実施出来た。	A	・指導がよく、児童、そして、先生方の倫理観がよく出ている。 ・学校や家庭でも、90%以上思いやりの心が育つよう努力されており、児童も81%が友達に優しく親切にしていると考えていて、目標は達成されていると思う。 ・地域の方々に、出逢っている子供を「ほめて」もらいましょう。	・道徳教育推進教師 ・人権・同和教育担当者 ・藤の花部	
	●心の教育	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていると回答した教員90%以上	・いじめの認知・認知に対する情報共有を行う。 ・いじめの対応についての研修・会議を年間に1回以上行う。	A	・いじめの認知・認知に対する情報共有を行うことで、学校全体の実態を共有した。そのため、いじめの防止について組織的対応ができていると回答した教員が100%となった。今後は、学校として、いじめの未対応を0にするための研修や会議を開く。	A	・いじめの防止について組織的対応ができていると回答した教員が100%となった。組織的対応だけではなく、教師間の情報共有、保護者との連携など必要に応じて会議を開くことができた。各教員がいじめ未対応0を目指し、日々の指導をすることができた。	A	・いじめに対する考え方が、そのまま児童に伝わっている。 ・組織対応が100%は、素晴らしいと思った!! ・情報共有は必ず行う。	・生徒指導主任 ・教育相談主任 ・藤の花部
●健康・体づくり	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「先生はあなたのよいところを認めてくれると思う」と回答した児童生徒80%以上 ●「将来の夢や目標をもっている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上 ◎ふるさと「日新」に愛着をもち、大切にしたいと肯定的な回答をした児童80%以上	・児童の主体性を育む授業づくりに関する校内研修等を実施する。 ・社会科、生活科、総合的な学習の時間等に体験的授業を取り入れたり、日新の町に関わる機会を作ったりする。	A	・校内研究とあわせて授業改善に取り組み、定期的に校内研修を実施した。 ・社会科、生活科、総合的な学習の時間を中心に、体験や見学等の活動を実施した。 ・成果指標の3つの項目について、7月アンケートでは、肯定的な回答をした児童が、いずれも80%以上(88.1%、81.8%、86.1%)だった。	A	・成果指標の3つの項目について、12月アンケートでは、肯定的な回答をした児童が、いずれも80%以上(84.7%、81.9%、89.7%)だった。 ・生活科(1年:昔遊び、2年:町探検)や総合的な学習の時間(3年:公民館での発表、5年キューボラ見学)等、地域人材や地域施設を活用した体験・見学活動を多く実施することができた。	A	・児童の目が輝いている。また、先生たちの指導に感謝する。 ・学校や家庭でほめられることで、やる気スイッチが入ると思うので、校長先生が言われていた、ほめてあげられるような指示の出し方を保護者の方にも、ぜひ、教えていただきたい。 ・子供たちが夢をもつために、保護者の目標を子供たちに話してもらってはどうかろう。	・教務主任 ・各教科主任 ・藤の花部	
	○安心感や信頼感を育む人間関係(仲間)づくり	○ほかほかカードを活用しながら、「お互いによいところがあると思う」と回答した児童80%以上	・道徳、学活等の時間を利用して、友達へのよさを認めるカードを書いて、掲示する。	A	・ほかほかカードを活用し、お互いによいところを見つけ、認め合う活動に取り組むことが出来た。「お互いによいところを見つけている」と回答した児童が86.1%だった。	A	・ほかほかカードを活用し、お互いによいところを見つけ、認め合う活動を継続出来た。 ・「お互いによいところを見つけている」と回答した児童が89.1%だった。上期に比べて3%増加した。	A	・カードの利用がうまくいっていると思う。良。 ・ほかほかカードの活用で、児童同士の関係や家庭、地域の人との信頼関係はよくなっていると思う。先生も積極的にほかほかカードを利用されては。 ・公民館にも、ほかほかカードを貼ったらどうかろう。	・人権・同和教育担当者 ・藤の花部	
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●望ましい生活習慣の育成	●「健康に食事は大切である」と考える児童95%以上 ○朝食をとって登校する児童が90%以上	・「早寝・早起き・朝ごはん」を推奨する。年間3回程度、チェック習慣を設け、日々の生活習慣の振り返りをする。 ・毎月の食育タイムで、望ましい食習慣やマナーについて確認する。	A	・「健康に食事は大切である」と考える児童は、96.3%だった。また、朝食をとって登校する児童は93.2%だった。生活リズムアップや食育タイムで生活リズムや食事の大切さについて児童に伝えることができた。	A	・「健康に食事は大切である」と考える児童は、95.6%だった。また、朝食をとって登校する児童は93.4%だった。生活リズムアップや食育タイムで生活リズムや食事の大切さについて児童に伝えることができた。	A	・生活リズムのズムをしっかりと児童へ指導した結果だ。 ・生活習慣は、子供だけ変えるのは難しいと思うので、ご家族で取り組んでいくことが必要だと思う。 ・地産地消も進め、地域のことを知ろう。	・体育主任(保健主事) ・栄養教諭 ・食育推進担当者 ・少年の像部
○運動習慣の改善や定着化		○運動やスポーツを行う時間が1週間200分以上の児童85%以上	・大縄大会などのスポーツイベントを実施する。 ・昼休みの外遊びを推奨する。	B	・1週間3時間以上運動をしている児童は約70%だった。熱中症指数が31を超える日が続き外で遊ぶ時間が少なかった。 ・後期は、気温が下がりがりで運動する児童が増えると思うので、大縄大会やマラソン週間などを企画し外遊びを推奨したい。	B	・1週間3時間以上運動をしている児童は約71%だった。マラソン週間や大縄大会の企画により、普段、外であまり遊ばない児童も外に出て、運動する機会ができた。	B	・全ての児童への3時間はハードルが高いのではないかと、近年、異常気象で外で運動するのは危険な時期もあるので、休み時間、体育館で遊んだり、新しいスポーツを体験する機会を作ったりして、体を動かす時間を増やせたらと思う。 ・大縄大会→日新地区民スポーツ大会に組み込む。	・体育主任(保健主事) ・栄養教諭 ・食育推進担当者 ・少年の像部	
●特別支援教育の充実		●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・毎日業務記録票に記入し、自分の時間外勤務時間を把握する。 ・業務改善委員会を実施する。	B	・4月時間外勤務時間45時間以上13名、80時間以上1名だったが、5月から80時間以上は無し、45時間以上が、5月10名、6月7名、7月2名と、勤務時間を意識して勤務できている。 ・1学期に業務改善委員会を2回開いた。改善点を考慮した実践を行うことができた。	B	・8月以降、時間外勤務時間80時間以上に該当する職員はいなかった。2学期は行事が多く、9月5名、10月10名、11月8名、12月1名が40時間以上勤務となった。しかし、各個人の時間外勤務時間の平均は、6ヶ月前より減っている。 ・2学期に業務改善委員会を開いた。3月に1回開く予定である。業務改善委員会では、改善点を考慮した実践を行うことができた。	B	・これ以上の努力は、マイナスになるだろう。 ・若い先生の意見も取り入れて改善され、また、トレインの方に支援していただくことで、更に時間外在校時間が削減できればと思う。 ・地域に頼れるところは頼ってください。	・教頭
	○学びやすい、働きやすい職場づくり	○学びやすい、働きやすい職場だと思っている職員が85%以上。	・業務内容の見直し・職場環境の改善等を行う。	A	・業務内容の見直し・改善は、年度途中でも行った。学びやすい、働きやすい職場だという職員が100%だった。	A	・学びやすい、働きやすい職場だという職員が100%だった。 ・教育相談担当、ミドルリーダー等を中心に若手職員に話し掛けている。	A	・校長・教頭・教務の人間性がそのまま職場に!! ・全職員の方が学びやすい働きやすい職場だと回答されていて、すごいと思う。 ・手伝えるところは手伝います。	・教頭	
	●特別支援教育の充実	○一人一人の児童を大切にす指導・支援の充実	○学級の実態に応じて、UD化を意識した授業や教室環境に努めたと回答する教員が90%以上 ○支援を必要とする児童に効果的な支援を行ったと回答した教員が90%以上	・特別支援に関する研修会を実施する。 ・全職員での情報共有を行う。	A	・夏休みに事例研究して、配慮を要する児童への支援方法を話し合い、2学期以降の指導につなげた。7月のアンケートで肯定的な回答をした職員が94%だった。 ・巡回相談での指導内容を共有したり、子ども情報会で児童への関わり方について話し合ったりしている。必要な場合は、ケース会議を持つようになっている。アンケートで肯定的な回答をした職員が97%だった。	A	・学級の実態に応じた授業や教室環境のUD化に努めた教員は93.4%であった。 ・支援を要する必要とする児童に具体的な支援を行った教員は96.7%であった。 ・全職員で支援を必要とする児童の共通理解を図り、個別に対応することができた。必要に応じて、巡回相談やケース会議も行うことができた。	A	・全職員が一人一人の児童への優しさ、思いやり、ありがたいと思う。 ・保護者とも連携して、一人一人に必要な支援を行ってあると思う。 ・地域で出来たことをほめてもらいましょう。	・藤の花 ・特別支援Co
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目										主な担当者	
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価			
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
○地域連携	○地域の学校支援体制づくり	○「保護者や地域の方が、応援してくれていると思う」児童80%以上	・地域学校協働活動推進員を中心とした学校支援体制づくり(応援ボランティアの募集・実施)を行う。 ・保護者や地域の方の学校行事・授業等への参加・支援体制づくりを行う。	A	・「保護者や地域の方が、応援してくれていると思う」児童が88.1%だった。 ・地域学校協働活動推進員を中心とした学校支援体制づくりのための話し合いを月1回行った。 ・水曜日の休み時間の見守りを自治会長にお願いし、延べ8人の方に来ていただいた。 ・読み語り、クラブ活動のボランティアに加え、地域や保護者、大学生に授業や休み時間の支援に来ていただいた。	A	・「保護者や地域の方が、応援してくれていると思う」児童が91.6%だった。 ・150周年事業等で、地域の方や保護者が学校に多く来校し、児童の見守りや支援を行ってもらった。 ・シシ工作業支援・寄贈品がけ掛け丸置き・休み時間の見守り等、日新小ボランティアの方に来ていただいた。 ・教職員OBで組織する「トレイン」の方(6名)が、児童や教職員の支援に週3回程度来ていただいた。	A	・新しい取組に期待する。 ・150周年の式典にも多くの地域の方が参加されており、日頃から学校との連携がなされていると思った。また、トレインの活動も、ぜひ、他の学校にも広げてほしい。 ・学校を中心にもっと進化させましょう。	・教頭 ・教務主任 ・担任	
○幼保二小連携	○幼稚園や保育園、こども園、中学校と連携し、成長を見据えた教育活動	○「情報を共有し、児童の成長を見据えた教育を行った」教員80%以上	・幼稚園や保育園、こども園と連携(年3回の会議と、1回以上の園への見学)をする。 ・教師間の情報共有(職員研修を2回)をする。 ・中学校と連携する。	A	・成果指標は、94%であった。今年度は、連携会議だけでなく、夏休みに本校職員が幼稚園や保育園、こども園に訪問をし、園の様子を見たし、話を聞いたりして連携を深めた。	A	・幼稚園保育園こども園や中学校と情報共有し、児童の成長を見据えた教育を行っている職員は、88.7%だった。 ・幼稚園保育園こども園に本校職員が出向き新1年生の様子を見たし、情報を聞いたりして連携を深めている。 ・中学校に児童・職員が出向いたり、中学校から6年生の様子を見に来てもらったりして、連携を深めている。	A	・幼稚園保育園こども園同士も小学校入学に向けて連携をしいたほうがよい。 ・支援が必要な児童の家庭については、特に連携、情報の共有が必要だと思う。他県等への転居も可能な限り連携をお願いする。 ・日新校区の特徴にしよう。地域の中に、大学・高・中・小・幼がある校区は少ない。	・教頭 ・教務主任 ・担任	

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	・児童・教師・保護者のアンケート結果は、目標を達成している項目がほとんどであったが、上期より下期の結果が悪くなっている項目があった。その項目については、教師間で共通理解を図り、具体的な取組について検討していく必要がある。 ・次年度も、学校の取組を発信していき、保護者・地域に理解・協力をしてもらい、保護者・地域・学校が連携し、児童の成長に向けたよりよい関わりを継続していく。 ・3部会での取組については、計画から実施で終わりではなく、反省を生かした次年度への計画の見直しまで行い、次年度の計画を「見える化」していく。 ・達成度Bの項目については、早急に改善策を具体化し、全職員共通理解のもと実践していくことが必要である。 ・業務改善・教師の働き方改革の推進が実践できるように、全職員が仕事の質を高めることを意識しながら、仲間と関わり合い、言葉掛けをしていく、さらなる学びやすい働きやすい職場作りを行う。
----------------	---